

# 馬路村 医療救護行動計画(目指す姿)

# 3 住民参加型 馬路村医療救護行動計画の内容

みんなで助け合う「新たな医療救護行動計画」の策定 馬路村

現状 馬路村 医療救護計画 (既存)

従前: 行政を中心とした医療救護計画

人口(町内)	3,169人
想定死者数	20人
想定負傷者数(うち重傷者)	90人(50人)
建物被害	全240棟 揺れ240棟 倒壊 12棟 火災 30棟
1日後の避難者数	370人
困難連絡回線日数(馬路~安芸市)	17日
困難連絡回線日数(馬路~魚梁瀬)	約14ヶ月

住民を中心としたネットワークを構築

目的 → 負傷者に対し、適確・迅速な治療・処置・療養・搬送を行います。  
目標 → 目的達成に必要な行動を明確にし、各自が速やかに対応可能な行動を起こせる仕組みを整備します。  
また、日頃から災害を意識し、減災(負傷者の低減)を目指します。

環境整備

馬路村役場 (災害対策本部)

外部支援受入箇所 (ヘリポート等)

地域ごとの総力戦!

馬路地区 魚梁瀬地区

地域ごとの総力で負傷者を援護!!

求められる医療救護行動計画

- 目的・目標が明確
- 誰もが協力可能な体制の整備
- 自助、共助、公助の連携
- 継続した体制の確保・怪我をしない準備
- 情報網、外部支援箇所の確保

## 1 南海トラフ地震の発生で起こり得る馬路村の状況

大きな揺れ、家屋の倒壊、ライフライン停止、山林崩壊、火災、道路網、通信網の寸断による長期孤立化、多数の死傷者・負傷者・行方不明者

課題: 長期の孤立化、医療・人的資源等の不足

検討: プラン策定の考え方

長期孤立化

負傷者の発生

医療救護所 + 準医療提供場所 + 地域の助け合いポイント + 助援体制整備

必要アイテム

後方搬送場所 (外部受援)

既存の備えだけでは対応できない!!

## 4 現状及び今後の目標(誰もが臨機応変に対応できる体制の確保)

目標: 住民参加型の医療救護活動

馬路村 総力戦 921名

防災力の育成

活躍できる人材の育成

地域救護協力員の育成

私は災害発生時及び緊急な対応が必要とされる場合、可能な範囲において馬路・魚梁瀬診療所または各地域にて応急処置などの協力を行います。(知識普及と活動体制の構築)

## 2 活用できる資源(人材・施設・物資)を集結させる仕組みが必要

馬路村を支える人材の結集

- ・各行政機関(役場、消防、警察等)
- ・医療機関(医療救護所担当医+在宅ナース等)

避難+事業継続計画に基づいた活動

医療救護活動

総力戦

+ 地域住民からの支援

住 民(医療機関、個人・事業所、医療関係機関等の職員)

避難行動・救助活動・安否確認後に医療救護活動に参加

活用できる設備と資源の結集、追加

・各行政機関:(馬路村、医療救護所、救護病院、拠点病院、高知県)

総力戦

地域からの支援

各家庭・事業所: 場所、家庭用医薬品、処方箋、その他日用品